

そんし きよじつへん  
孫子「虚實篇」

25 そんしい およ へいもち  
孫子曰わく、凡そ「兵を用うるに、」先きに戦地に処りて敵を待つ者は佚し、後れて戦地に処りて戦いに趨く者は勞す。

ゆえ よ たたか おもむ もの ろう  
故に善く戦う者は、人を致して人に致されず。能く敵人をして自ら至らしむる者はこれを利すればなり。能く敵人をして至るを得ざらしむる者はこれを害すればなり。故に敵 佚すれば能くこれを勞し、飽けば能くこれを餓えしめ、安んずれば能くこれを動かす。

26 そ かな おもむ ところ い そ おも ところ おもむ せんり ゆ つか もの むじん  
其の必らず趨く所に出で、其の意わざる所に趨き、千里を行いて勞れざる者は、無人の地を行けばなり。

せ かな と もの そ まも ところ せ 守りて かな かつ もの そ せ ところ せ 故に  
攻めて必らず取る者は、其の守らざる所を攻むればなり。守りて必らず固き者は、其の攻めざる所を守ればなり。故に善く攻むる者には、敵 其の守る所を知らず。善く守る者には、敵 其の攻むる所を知らず。微なるかな微なるかな、

無形に至る。神なるかな神なるかな、無声に至る。故に能く敵の司命を為す。

27 進みて禦ぐべからざる者は、其の虚を衝けばなり。

退きて追うべからざる者は、速かにして及ぶべからざればなり。故に我れ戦わんと欲すれば、敵 壘を高くし溝を深くすと雖も、我れと戦わざるを得ざる者は、其の必らず救う所を攻むればなり。我れ戦いを欲せざれば、地を画してこれを守ると雖も、敵 我れと戦うことを得ざる者は、其の之く所に乖けばなり。

28 故に人を形せしめて我れに形無ければ、則ち我れは専まりて敵は分かる。

我れは専まりて一と為り敵は分かれて十と為らば、是れ十を以て其の一を攻むるなり。則ち我れは衆にして敵は寡なり。能く衆を以て寡を撃てば、則ち吾が与に戦う所の者は約なり。吾が与に戦う所の地は知るべからず、吾が与に戦う所の日は知るべからざれば、則ち敵の備うる所の者多し。敵の備うる所の者多ければ、則ち吾が与に戦う所の者は寡なし。故に前に備うれば則ち後寡なく、後に備うれば則ち前寡なく、左に備うれば則ち右寡なく、右に備うれば則ち左寡なく、備えざる所なければ則ち寡なからざる所なし。寡なき者は人に備うる者なればなり。衆き者は

ひと 人をして己れに備えしむる者なればなり。故に戦いの地を知り戦いの日を知れば、則ち千里にして会戦すべし。戦いの地を知らず戦いの日を知らざれば、則ち左は右を救うこと能わず、右は左を救うこと能わず、前は後を救うこと能わず、後は前を救うこと能わず。而るを況んや遠き者は数十里、近き者は数里なるをや。吾れを以てこれを度るに、越人の兵は多しと雖も、亦た奚ぞ勝に益せんや。敵は衆しと雖も、闘い無からしむべし。

ゆえ 故にこれを策りて得失の計を知り、これを作して動静の理を知り、これを形して死生の地を知り、之に角れて有余不足の処を知る。

ゆえ 故に兵を形すの極は、無形に至る。

むけい 無形なれば、則ち深間も窺うこと能わず、智者も謀ること能わず。形に因りて勝を錯くも、衆は知ること能わず。ひとみ 人皆な我が勝の形を知るも、吾が勝を制する所以の形を知ること莫し。故に其の戦い勝つや復さずして、形に無窮に応ず。

夫れ兵の形は水に象る。

水みずの行こうは高たかきを避さけて下ひくきに趨おもむく。兵へいの形かたちは実じつを避さけて虚きよを撃うつ。水みずは地ちに因よりて流ながれを制せいし、兵へいは敵てきに因より

て勝しょうを制せいす。故ゆえに兵へいに常じょう勢せいなく、水みずに常じょう形けいなし。能よく敵てきに因よりて変へん化かして勝しょうを取とる者もの、これしんを神いと謂いう。

〔故ゆえに五行ごぎょうに常じょう勝しょうなく、四しい時じに常じょう位いなく、日ひに短たん長ちやうあり、月つきに死し生せいあり。〕